

「下関バイオマス発電所」の燃料輸送第1船が入港しました

当社、西日本プラント工業、九電産業が出資する下関バイオマスエナジー合同会社は、山口県下関市において木質バイオマス専焼としては国内最大級となる「下関バイオマス発電所（発電出力74,980kW）」の試運転を2021年7月2日のボイラー初点火以降計画どおり進めておりますが、同月30日に、主燃料である木質ペレットを積載した第1船「GRAND TAJIMA ONE（約13,000t）」がベトナムから下関港に入港しましたので、お知らせいたします。

また、第1船入港当日は、国土交通省九州地方整備局下関港湾事務所さまが西山地区の岸壁改良工事完了見学会*も開催され、下関バイオマスエナジー合同会社社長の寺崎正勝（当社常務取締役）が利用者として挨拶に立ち、「輸入木質バイオマス発電所の建設には、①燃料輸送船が着岸可能な港湾、②工業用水の確保、③電力の系統接続が大きな要素となる中で、西山埠頭は全ての要素を備えており、更にこのような立派な埠頭に整備していただき、非常にありがたい」と感謝の意を述べました。

今後、年間を通してベトナムやカナダから燃料輸送船が入港する予定であり、荷役・陸上運搬作業は地元企業に委託する等、本事業を通じて地元の雇用創出、経済活性化への貢献を図ります。

2022年2月の営業運転開始に向けて、引き続き無事故・無災害で、試運転を進めてまいります。

※2021年7月20日 国土交通省九州地方整備局下関港湾事務所HP掲載「下関港西山地区水深12m岸壁の工事完了見学会の開催」は[こちら](#)

■第1船入港当日の様子（動画は[こちら](#)）



▲木質ペレットを積載した第1船「GRAND TAJIMA ONE（約13,000t）」



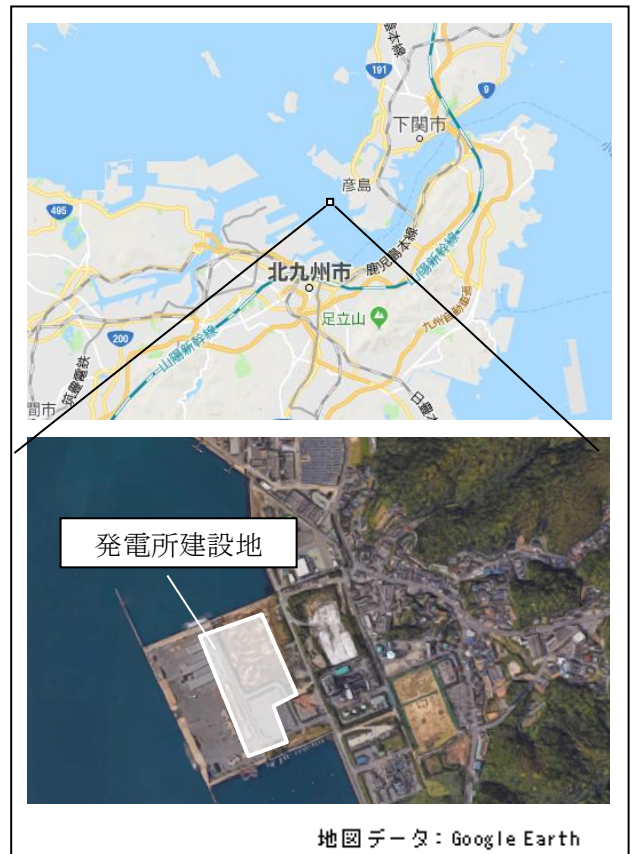
▲記念撮影（下関バイオマス発電所を運営する当社グループ「下関バイオマスエナジ-合同会社」メンバー）

■ 下関バイオマス発電所の概要

【事業概要】

項目	内容
事業者	下関バイオマスエナジ-合同会社 社長 寺崎 正勝 (九電みらいエナジ-株常務取締役事業企画本部長)
出資者	九電みらいエナジ-株 85% 西日本プラント工業株 9% 九電産業株 6%
所在地	山口県下関市彦島迫町7丁目 (下関市所有地他)
定格出力	74,980kW
年間発電量	約5億 kWh/年 (一般家庭の約14万世帯相当)
燃料使用量	約30万 t/年 (木質ペレット)
CO2排出抑制効果	約34万 t-CO2/年
着工	2019年6月
運転開始	2022年2月 (予定)

【建設場所】



【発電所外観】



【出資者】

社名	九電みらいエナジー株式会社
設立日	2014年7月1日
所在地	福岡市中央区薬院 3-2-23 KMGビル8階
代表取締役社長	水町 豊

社名	西日本プラント工業株式会社
設立日	1954年5月
所在地	福岡市中央区高砂一丁目10番1号
代表取締役社長	佐々木 有三

社名	九電産業株式会社
設立日	1953年5月
所在地	福岡市中央区渡辺通二丁目1番82号電気ビル北館3階
代表取締役社長	薬真寺 偉臣

■（参考）下関バイオマス発電所に関する過去のお知らせ

- ・2018年2月20日「下関市における木質バイオマス発電事業のための土地の賃貸借契約を締結しました」は[こちら](#)
- ・2018年12月27日「下関市における木質バイオマス発電事業のための公害防止に関する協定を締結しました」は[こちら](#)
- ・2019年5月24日「下関バイオマス発電所の起工式を執り行いました」は[こちら](#)